

⑩ 日本国特許庁 (JP) ⑪ 特許出願公開  
⑫ 公開特許公報 (A) 昭57—117855

⑬ Int. Cl.<sup>3</sup>  
A 61 F 13/18

識別記号 庁内整理番号  
7033—4C

⑭ 公開 昭和57年(1982)7月22日

発明の数 2  
審査請求 未請求

(全 3 頁)

⑮ パンティ接着性の優れた生理用ナプキン

州メナシヤ・エルム・ストリー  
t.350

⑯ 特 願 昭56—122915

⑰ 出 願 人 キンバリー・クラーク・コーポ  
レーション

⑱ 出 願 昭56(1981)8月5日

優先権主張 ⑲1980年8月5日⑳米国(US)

アメリカ合衆国ウイスコンシン  
州ニーナ(番地なし)

㉑175298

㉒発 明 者 ビリー・ジャン・マゼウス  
アメリカ合衆国ウイスコンシン

㉓代 理 人 弁理士 中村稔 外4名

明 細 書

1 発明の名称 パンティ接着性の優れた生理用  
ナプキン

2 特許請求の範囲

- (1) 吸収部材と非浸透性パツフルとから成り、辺  
に沿つて内側にわん曲した線と、各々の線に対  
応する感圧接着剤片とを有しており、前記感圧  
接着剤片がナプキンの前記わん曲部分において  
縦線から等距離に配置されていることを特徴と  
する生理用ナプキン、
- (2) 前記ナプキンの端が外側にわん曲しているこ  
とを特徴とする特許請求の範囲第1項記載の生  
理用ナプキン、
- (3) 前記接着剤片が前記端の外側わん曲が始まる  
ところで終つていることを特徴とする特許請求  
の範囲第1項記載の生理用ナプキン、
- (4) 接着剤片と縦線間の距離が少なくとも1/4イ  
ンチであることを特徴とする特許請求の範囲第  
1項ないし第3項のいずれかに記載の生理用ナ  
プキン、

- (5) 吸収部材と非浸透性パツフルとから成り、辺  
に沿つて内側にわん曲した線と各々の線に対応  
する感圧接着剤片を有して前記接着剤片が  
前記わん曲部分において縦線から等距離に配置  
されていることを特徴とするパンティライナー、
- (6) 接着剤片と縦線間の距離が少なくとも1/4イ  
ンチであることを特徴とする特許請求の範囲第  
5項記載のパンティライナー、

3 発明の詳細な説明

この発明は、下着に付着させるための感圧接着  
手段を有する生理用ナプキンに関するものである。  
生理用ナプキンを支持する下着にナプキンを付  
着させるための感圧接着手段を有する生理用ナプ  
キンは、過去数年の間に需要者にかなり受け入れ  
られるようになってきた。これらのナプキンは、  
一般に、平行な縦線と両端に延びているつまみ部  
にその特徴がある。

これらのナプキンは、一般に、吸収パッド、浸  
透性外被ラップ及び非浸透性パツフルを有する。  
パツフルはラップ又は吸収パッド自体に接着剤に

より又は融着させて取り付けることができる。下層に付着させるために使用される感圧接着手段は、パツフルに直接着付するかあるいはパツフルが外側ラップで包まれている場合にはその部分に敷布することができ、また、米国特許第3,674,393号に記載されているように、実際にラップをパツフルに接着し、かつラップの重り合った端を接合する役目をする。

接着剤をラップに着付するか又はパツフルに着付するかにかかわらず、吸収パッドの下層に面する側面に沿う接着剤の細々の配置は、接着剤の付着効果と使用者が活動しているときのナプキンの快適性の双方に大きく影響する。

接着剤の配置については、過去多くの配置が公表されてきた。例えば、米国特許第3,434,008号はナプキンの端に接着剤を配置しており、又米国特許第3,674,393号はナプキンの縦線に平行にかつ若干そこから内側へ引つ込ませた接着剤層を有するナプキンを開示している。縦線に平行でかつ若干内側へ引つ込ませたこの配置は、下層に対す

るナプキンの付着を維持する上で極めて効果があるため、需要者に広く受け入れられた。

しかし、最近になつて、縦方向の辺の各々に沿つて内側にわん曲した線を有する生理用ナプキンが提案された。この形状は、会陰部の立体形に非常によく一致するので、使用者にとつて付けこちのよいものである。このような内側わん曲形状をもつ生理用ナプキンは、一般に、いわゆるパンティライナー形とされている。このようなナプキンはかなり薄手にデザインされ、タンポンと一様に、又は軽い月経だけでもしくは他のおりものあるときに使用するのに特に適している。

パンティライナー形の生理用ナプキンは、薄手であるため、柔軟性が大きく、使用者が活動すると、よじれてしまう傾向がある。この形状のナプキンを互いに平行な2本の接着剤層で付着させるものとする、わん曲の中央部と切抜き区域の端とではナプキンの縁との間の距離にかなりの差異が生じる。接着剤層と切抜き区域の端との間の距離は、わん曲の最深部におけるそれよりもかなり

長く、通常の使用時に、ナプキンのこの自由な付着されない部分が底部でそれ自体の上に折り返され、実際にパンティライナーの両端で下層に付着させるためにデザインした接着剤にくっつくことがある。更に、ナプキン縁の非接着自由端は、その柔軟性とそれらの位置が自由に変わるため、擦傷を生じさせることがある。

この発明による生理用ナプキンは、その縦線に沿つて体形に一致したわん曲形状を有し、下層に付着させるための感圧接着剤片が付いていて、これらの接着剤片は生理用ナプキンの内側わん曲縁から等距離に配置されている。

特に好ましい実施例では、上述の形態上の特徴を有するパンティライナーに上記形状の接着剤層が配置されている。

この発明において、パンティライナーとは吸収部材と非透過性パツフルを有し、全体の厚さが3/8" (3/8インチ) 以下である生理用ナプキンと定義する。パンティライナーは選択的に透過性ラップを付けることができる。

発明は添付図面を参照すれば容易に理解できよう。図1図のように、下層に面する柔軟な表面2aをもつパツフル2を備えた生理用ナプキンには1対の接着剤層3が付けられている。生理用ナプキンは、透過性外被ラップ4を有し、ラップ4は吸収パッド5を包み、その上面はパツフル2に付着している。ナプキンは、その端に外側にわん曲した縁6と、その縦線に沿つて1対の内側にわん曲した縁7を有する。図1図からわかるように、接着剤層3は、縦線から内側に等間隔をおいて一様に延びている。

接着剤層の外側縁と生理用ナプキンの縦線間の距離は、他の要素のうちナプキンのサイズとパツフルの剛さに応じて変えることができるけれども、一般にこの距離は少なくとも1/4インチにすることが好ましい。パツフルが柔軟であればあるほど、接着剤層付きのパツフル自体がくっつく危険が大きいことは明らかであり、非常に柔軟なパツフルについては接着剤がナプキンの縦線により近くにあることが好ましい。

又、接着剤ラインの両端は、ナプキン端部の外側わん曲が始まる所で終っていることが好ましい。これは、ナプキンのわん曲が外向きであるため配置距離をコントロールすることが困難であること、又ナプキンの端部では接着剤は下着よりもむしろ使用者にくっつくことがあることがわかつたからである。これは、ナプキンの端がつまみ部になるようにデザインされている場合、すなわちナプキンの端に吸収部材が存在しない場合には、特に言えることである。柔軟性が増すために不都合な付着を生ずる可能性が大きくなるからである。

4 図面の簡単な説明

第1図はこの発明に係るナプキンの一部断面底面図である。

図中、主要部分の参照符号は下記の通りである。

- 2 … パツフル、20 … パツフルの下着に面する裏面、
- 3 … 接着剤層（片）、4 … 外被ラップ、
- 5 … 吸収パッド、6 … ナプキンの端部、
- 7 … 内側わん曲線、

